

# オーディションのお知らせ

2021年1月 シアターχ（カイ）にて公演

## 『マリアの首』 —幻に長崎を想う曲—

（脚本 田中千禾夫・1959年作）

### 【ヒロイン他、出演者オーディションの概要】

貴社ますます、ご盛栄のこととお慶び申し上げます。

演出・脚本・俳優/南英二氏が代表を務める演劇企画集団エムズグループが、映画・演劇・ショーを制作するファミリーアーツとタッグを組んだ舞台の第二弾として、昭和32年の長崎を描いた「マリアの首」—幻に長崎を想う曲—を上演致します。

つきましては、才能溢れる方々との出会いを求める趣旨にて、ヒロイン『鹿』、『次五郎』、『静』役のオーディションを開催いたします。

是非、多くの俳優の方々にご応募頂きたくお願い申し上げます。

『マリアの首』 2021年1月21日(木・初日)～1月26日(火・千秋楽)

[劇場 シアターχ・全9ステージ]

稽古は、12月中旬より開始。12月は夜稽古のみ。1月5日より昼夜稽古となります。

### オーディション要項

- 募集内容……鹿役 35歳～40歳位の女性  
次五郎役 35歳～45歳位の男性  
静役 40歳～45歳位の女性
- 応募方法……履歴書ほか郵送（プロフィール希望の役を書くこと・写真2枚-全身・上半身/裏面に氏名を記入）
- 選考方法……1次/書類審査 2次/実技審査（特技・台詞・質疑応答）
- 締切……2020年9月30日（金）必着
- オーディション日……2020年10月2日（金）
- 備考……出演料支給・チケットバックもあります。
- 宛先……〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 6-1-2 表参道ビル 5F  
（株）ファミリーアーツ「マリアの首」オーディション係
- 問い合わせ……☎ 090-8876-4018（小森迄）

●参考資料（演出家によるオープニングのテキストレジ〜あるいは演出プラン）

## マリアの首

### 舞台オープニング

廃墟のようでもある。

例えば、被災し荒廃した都市の広場。

例えば、被爆し一部を残して崩壊した聖堂。

例えば、爆発事故を起こして機能不全に陥った原発の敷地。

男声合唱のグレゴリオ聖歌が聞こえてくる。

暗闇からみな同じコートを着てトランクを下げた男女が三々

五々集まってくる。

彼らはかつてこの街で被曝し命を失ったものであり、また同じくこの街で信仰ゆえに迫害され命を奪われたものでもあり、あるいは、自身の生まれた土地を追われ定住の地を求め、彷徨うものたちでもある。

男声合唱のグレゴリオ聖歌が聞こえてくる。

と、その中から声が聞こえてきた。

声の内容は永井隆氏の『原爆被災者合同慰霊祭』での『弔辞』、のちに「浦上燔祭論」として賛否を分けたものである。

今、数人のグループが鞆の中から大きな布を取り出し、それを広げ、建物の残骸に棒つきれを渡して布をかけた。どうやら簡易の天幕のようだ。

と、そこに焼け跡となった浦上の古い白黒写真がぼんやりとだが、次々と映し出されていく。

一人の女がコートを脱ぎ、トランクから取り出した黒っぽいマントに着替えると何かを入れた底の紐のついた浅い箱を駅弁売りのように首からぶら下げた。忍を演じる女だ。

天幕の中から女の悲鳴が上がると、男が飛び出して舞台奥へ走って消えた。

これを合図にしたかのように、全員がコートを脱ぎ、それぞれの役になっていく。

グレゴリオ聖歌が町のノイズにのみこまれ聞こえなくなり、代って、『モッキン・バードヒル』、『テイク・ファイヴ』や『お富さん』などの当時のジャズやポップスや流行歌が渾然一体となり、あるときは単独で、またあるときは波のよううねりとともに聞こえてくる。

舞台上のどこかに字幕が投影される。

◇1958年 / 昭和33年 / 1月末 / 長崎港周辺 / 合同市場◇ さ、始まりです。

**【キャスティングイメージ】**

鹿・・・35歳前後 生き残ってしまった者としての罪を抱え込んでいる女性。映画では、高島礼子が演じました。

次五郎・・・博徒としてのではなく人足を管理し統率する「侠客」。女好きだが、一途さのある硬派。映画では、金児憲史が演じています。

静・・・40歳前後 看護婦として坂本医師の病院で、働いている。

※「マリアの首」を原作として映画「祈り-幻に長崎を想う刻-」は、2021年夏に全国公開されます。その配役を一部、参考として上記に記しました。

以上